

第47回 メディアとことば研究会

2016年9月2日(金)

13時半～15時半(13時受付開始)

於 大阪大学大学院言語文化研究科

A棟2階大会議室(豊中キャンパス)

(<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka/toyonaka.html/>)

参加費無料

「メディアとことば研究会」HP

<http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>

※参加ご希望の方は、メディアとことば研究会事務局 medialalala**gmail.com (**は@)まで、お名前・ご所属をお知らせ下さい。

準備の都合上、9月1日(木)までにご連絡下さい。(当日の飛び入り参加も歓迎します。)

プログラム

13:30-13:35

会の紹介

13:35-13:40

ゲストご紹介

13:40-14:40

ゲストトーク

14:40-15:20

質疑応答

15:20-15:30

お知らせ

(今後の日程、研究会発表者、企画募集など)

◎ゲスト…………… **金水 敏** (大阪大学大学院文学研究科教授)

◎タイトル…………… **フィクションにおける話し言葉**

——役割語とキャラクター言語——

◎概要

2003年の『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』以来、「役割語」の概念は他の研究者や創作者や学生らとの対話を重ねるなかで、どのように修正されてきただろうか。

発表者は、2003年の役割語の定義のなかで漠然と捉えられてきた「主体」や「属性」の問題をより精緻化し、「言語コミュニティーの大多数が共有する、社会的・文化的ステレオタイプを反映した言葉づかい」と定義し直すことを考えている。その結果として、実際のフィクションに現れるキャラクターの話し方は、しばしば典型的な役割語からずれていたり、一見、まったく既存のどの類型とも関わらないように見えたりするという現象が逆に照らし出されることとなった。

筆者は、学部生の演習を重ねるなかで、役割語を補助線として使いながら、キャラクターの言語を分析することによってフィクションを内側から読み解く技術について構想している。その一環としての「村上春樹翻訳調査プロジェクト」を中心に、現在進行中の仕事についてお話しさせていただきたい。

ひつじ書房 新刊



コミュニケーションへの言語的接近

定延利之 著 定価 4,800円+税

言語研究に広く浸透しているコミュニケーション観の問題点を明らかにし、新しいコミュニケーション観を提示する。コミュニケーション・言語・音声の研究の架け橋となる1冊。

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

TEL: 03-5319-4916 FAX: 03-5319-4617 toiawase**hituzi.co.jp (**は@)

ひつじ書房

